第１学年　道徳科学習指導案（ユニット）

１　単元名　　ともだちとなかよく（４時間完了）

２　構　想

（１）子供の実態とねらい

　　小学校に入学した4月当初と比べ、子どもたちは随分学校での生活に慣れてきた。授業や休み時間、給食、掃除…といった学校での生活の仕方だけでなく、先生や友達、上級生の名前も覚え、新しい環境になじみ、周りの人とかかわりながら元気よく過ごすことができている子どもが多い。休み時間の様子を見ていると、一人遊びに熱中する子どもの他に、「鬼ごっこする人、中庭集合。」などと友達を誘って数人で活発に遊ぶ子どもの姿も見られ、自分から様々な人にかかわろうとする子どもが増えてきたように感じている。しかし一方で、相手が嫌がっていることに気づかず、何度もちょっかいをかけてしまったり、自分勝手な意見を押し付けてけんかになったりなど、友達とのかかわりが増えたからこそのトラブルも起きることがある。1年生の中には、まだ自己中心的な考えが強く、友達の立場を考えたり、自分とは違う意見を受け入れることが難しい子どももいるが、友達と仲良くしていくためには、自分本位にならず、相手の気持ちを考え、思いやることが大切である。友達とのかかわりが増えてきた今だからこそ、相手の気持ちを考えながら、友達と仲良く過ごしていこうという気持ちをもち、友達とかかわることの楽しさを感じてほしいと思い、本単元を設定した。

（２）単元計画

|  |
| --- |
| （１）「ちくちく言葉とふわふわ言葉を探そう」（学活）１ |
|  |
| （２）「となりの席のますだくん」を読もう　　（道徳） １ |
|  |
| （３）「ますだくんとみほちゃんがなかよくなるには、どうしたらいいのかな」（ますだくんの1ねんせい日記）　（道徳）１ |
|  |
| （４）「こんな友達いるかな？名探偵ゲーム」　（学活）１ |
|  |
| （５）友達の良いところを見つけよう　　　　　　随時 |

・言われると嫌な言葉とうれしい言葉見つけをし、言葉遣いを考える。

・読み聞かせを聞き、みほちゃんとますだくんについて思ったことを交流する。

・Ｂ　友情・信頼

・相手の気持ちを考えて、友達と仲良くしようとする気持ちを高める。

・インタビュ形式のゲームを通して、学級の様々な子とかかわり、友達のことを知る。

・友達の頑張りや良いところを見つけ、帰りの会等で紹介し合う。

３　本時の学習指導

（１）教材　「ますだくんの１ねんせい日記」（Ｂ　友情、信頼）

　　　出典　　ポプラ社（武田美穂　作・絵）

（２）教材について

本単元では、隣同士の席のみほちゃんとますだくんの日常のやりとりを描いた2冊の絵本を教材として扱う。『となりのせきのますだくん』は、みほちゃんの視点で、物語が進められている。引っ込み思案で苦手なことが多いみほちゃんは、授業や給食の時間に何かと自分にちょっかいをかけ、乱暴な言い方や振る舞いをするますだくんのことが苦手である。ある日、お気に入りの鉛筆をますだくんに折られ、学校に行きたくなくなってしまう。一方、『ますだくんの１ねんせい日記』では、ますだくんの視点で物語が進んでいる。ますだくんは、何かと頼りないみほちゃんのことが気になって仕方がなく、親切のつもりであれこれと世話をやくのだが、みほちゃんには少しも受け入れてもらえずにいる。みほちゃんの鉛筆を折ったのはますだくんではなく、別の友達なのだが、誤解を受けたままでどうしたらいいかと思い悩んでいる。

みほちゃんとますだくんは、それぞれ、自分の立場からだけで物事を考えているので、お互いに理解し合えずぶつかってしまっている。なんでも怖がって相手を受け入れようとしないみほちゃんにも、相手の気持ちを考えず、自分の気持ちばかり押し付けてしまうますだくんにも改善すべき部分がある。そこで、この2冊の本を読み聞かせ、双方の気持ちと行動を理解させたうえで、みほちゃんとますだくんが仲良くなるためには、どうしたらよいかを考えさせる。そうすることで、自分とは違う考えや感じ方があることを知り、相手の立場を考えることの大切さに気づかせたい。そして、実生活でも、相手の気持ちを考え、友達と仲良く過ごそうという気持ちを高めたい。

（２）豊かな心とたくましさを育むための手だて

　①かかわり合うための心を育てるために

・問題解決型の授業展開

登場人物それぞれの立場と思いが分かった後で、「ますだくんとみほちゃんが、仲良くなるためにはどうしたらいいか」を問い、問題場面を明確にした上で話し合う。仲良くなるために必要なことをそれぞれの立場で考えていく中で、自分とは異なる意見に気づき、相手のことも考えて行動することの大切さに気づかせたい。

②かかわり合うための技を育てるために

・役割演技を通して

仲良くなるためにはどのように話すとよいのかを、ますだくん役とみほちゃん役に分かれて役割演技をさせる。そうすることで人物の気持ちに寄り添いながら自分の気持ちを素直に表現できるようにしたい。また、役割演技を見ていた子にも、演技を見て感じたことを聞くことで、友達の意見を取り入れながら、みんなでよりよい解決方法を考えることができるようにしたい。

　③個を見つめ、伸ばす評価をするために

・個々の意識の変容を記録に残し、言葉がけを通して行動につなげる

　前時に「となりのせきのますだくん」を読んだ際、登場人物について個々がどんな感想をもったかを把握しておく。そして、本時の話し合いを通して、考えがどのように変容したかを捉え、話し合いを通して得た新たな視点は、授業の振り返り記録で称賛する。また、学んだことが実生活へとつながるよう、「よいこと見つけ」の活動をし、友達の良さを見つけ理解しようとする姿勢を認めて、伸ばしていきたい。

（３）本時の目標

①　二人の気持ちのすれ違いから起きている問題の解決方法を考えることで、相手を思いやって行動することの大切さに気づく。

　②　相手の気持ちを考えて、友達と仲良く過ごそうという気持ちを高める。

４　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 児童の活動 | 教師の活動 |
| 導入  （5）  展開  (30)  整理  (10) | １　友達と仲良くできなくて、困ったことはありますか。  ・友達に嫌なことを言われた。  ・遊ぶ約束をしたのに、遊んでくれなかった。  ・何もしていないのに、たたかれた。  ２　仲良しになるひみつについて考えよう  ３　「となりのせきのますだくん」のお話で、みほちゃんや、ますだくんは、どんな子だと思いましたか。  ・みほちゃんは、ますだくんが怖い。  ・みほちゃんは、嫌いなものがたくさんあるよ。  ・ますだくんは、みほちゃんにいじわるだよ。  ４　ますだくんが、困っているのはどんなことですか。  ・みほちゃんが、なんでも怖がって逃げてばかりいること。  ・みほちゃんの鉛筆が折れてしまったこと。  ・みほちゃんに、いじわるって言われたこと。  ５　ますだくんとみほちゃんが、なかよくなるには、どうしたらいいのかな。  〔ますだくん〕  ・怒ったり、たたいたりしてごめんねと言う。  ・みほちゃんに、嫌なことをしてごめんと謝る。  ・優しい言い方で優しく教えてあげればいい。  ・仲良くしたいなと正直に言う。  〔みほちゃん〕  ・怖がってばかりいないで、嫌なことは、ちゃんとやめてと言う。  ・ますだくんの気持ちを分かって許してあげる。  ・ますだくんの言うように逃げずに頑張る。  ６　次の日、学校で二人はどんなふうに話すといいのでしょう。  〔まさおくん〕  ・おはよう。鉛筆直してきたよ。今までたたいたりしてごめんね。これからは、優しく言うよ。  →謝ってすっきりしたよ。  〔みほちゃん〕  ・わたしも、ごめんね。教えてくれてたんだね。  →ますだくんの気持ちが分かってうれしいな。  ７　友達と仲良くするために、これからするといいと思うことは何ですか。  ・嫌な気持ちにさせないよう優しい言葉で言う。  ・相手の気持ちを考えたほうがいいな。  ・いけないときは、ちゃんとごめんねと言う。 | ・机はコの字型、子どもは読み聞かせ隊形に座らせておく。  ・普段の友達とのかかわりを想起させ、学習課題と子どもの意識をつなぐ。  ・実名は出さないよう配慮する。  ・本時の学習テーマを伝える。  ・前時の子供の意見を登場人物ごとにまとめたものを示し、話の内容を簡単に振り返る。  ・ますだくんの視点の物語であることを伝え、本時の教材（絵本の一部）を読み聞かせる。  ・ますだくんは、みほちゃんが嫌いで意地悪をしているのではないことを押さえる。  ・二人の気持ちがすれ違っていることを確認し、主発問へとつなげる。（手だて①）  ・自分の席へ戻るよう指示する。  ・それぞれの立場からできることはないか考えるよう促す。  ・謝るという意見については、何について謝るのかを問い返し、多様な意見を引き出す。  ・立場にかかわらず、仲良くするための方法を進んで考え発言しようとする姿勢を称賛する。  ・意見が片方に偏る場合は、「○○さんだけが気をつければいいかな」と切り返し、お互いに相手の気持ちを考えることの大切さを意識させる。  ・みほちゃん役とますだくん役に分かれて役割演技をするよう指示する。  ・「おはよう。…」のあとに続く言葉を考えて二人で演技する。  ・数組指名して役割演技を行い、演技者だけでなく、見ていた子どもにも二人が仲良くなれそうかどうか尋ねる。（手だて②）  ・ワークシートを配付する。  ・「ぼく・わたしは…」に続くように文を書き出すよう指示する。  ・進んで考え、発言しようとした子どもを称賛する。 |

５　評　価

①　二人が仲良くするための方法を考えることを通して、友達を思いやった言葉遣いや行動をすることの大切さに気づくことができたか。

（活動５、６の発言、ワークシートの内容から）

　②　友達と仲良く過ごしていくために大切なことやこれからしたいと思うことを見つけ、実行しようとする気持ちをもつことができたか。

（活動５、６、７の発言、ワークシート、その後の生活の様子から）

６　板書計画

